

調査

LOBO 早期景気観測

4月 日商調査日 4月10日～17日
当所調査日 4月10日～19日

LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、会員企業40社の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

日商調査

4月の全産業DI ▲14.0

(前月比 ▲1.1ポイント)

中小企業の景況感

製造業は、輸入部材の高騰や企業の設備投資の足踏みなどで悪化した。建設業も、資材価格の高騰や人手不足による受注機会の損失でほぼ横ばいにとどまった。また、卸売業は、飲食・宿泊関連からの引き合いが増加するも、物流費の高騰などのコスト増で弱含んでいる。小売業・サービス業は、国内外の観光需要の増加や、歓迎会などの季節需要の恩恵を受けて改善を示すも、力強さを欠いている。

歴史的な円安基調や深刻な人手不足への対応、働き方改革関連法の施行に伴う輸送費の上昇や、賃上げなどによるコスト増が足かせとなっている。コスト増に見合う労務費を含む価格転嫁も追い付かず、業況は再び悪化に転じた。

先行き

先行き見通しDIは ▲12.7
(今月比 +1.3ポイント)

人手不足対策や価格転嫁の推進などの継続的な経営課題に加え、政府の激変緩和措置終了に伴う電気代などの高騰や、歴史的な円安基調によるコスト増が危惧される。また、中東情勢の緊迫化による影響を不安視する声も聞かれる。一方、大型連休などでの国内外の観光需要のさらなる増加や、公共工事の本格稼働、企業の設備投資の拡大など、先行きは改善への期待感が高まっている。

【関東ブロックの業況についてのコメント】

大手企業と同等の賃上げを行うのは難しく、人材確保はさらに困難さを増している（一般工事業）。

物流2024年問題に伴い、取引先への納品遅延や、最低発注数の引き上げに伴う在庫数の増加で、保管料などのコストが上昇している（包装資材卸売業）。

当所調査

「売上増と裏腹に、先行きは不透明」

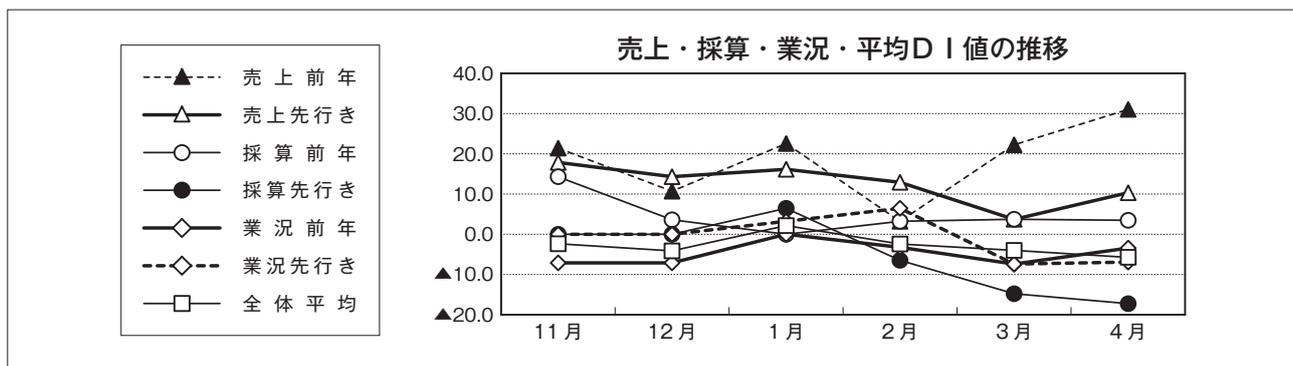
全体平均DIは ▲5.7で前月に比べ ▲1.7ポイントの悪化。項目別では、売上前年+8.8と増加が見られたものの、採算先行き ▲2.4ポイントの悪化、仕入先行き ▲6.7ポイントと先行き項目で悪化が見られた。コメントには、「価格高騰、賃上げにより、売上は前年比を上回るものの採算は下回る見込みである」（観光バス・旅行業）や「賃上げと人員確保が課題である。価格転嫁は慎重に行う」（菓子小売業）といった声が寄せられた。売上高が上昇するも、物価高や賃上げの影響により、採算にずれが生じている。

(全産業)

水戸商工会議所会員企業LOBO調査(DI値推移)

(サンプル数40社)

項目	令和5年			令和6年			
	4月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
売上前年	8.1	21.4	10.7	22.6	3.2	22.2	31.0
売上先行き	24.3	17.9	14.3	16.1	12.9	3.7	10.3
採算前年	▲21.6	14.3	3.6	0.0	3.2	3.7	3.4
採算先行き	0.0	0.0	0.0	6.5	▲6.5	▲14.8	▲17.2
仕入前年	▲67.6	▲67.9	▲71.4	▲61.3	▲64.5	▲55.6	▲51.7
仕入先行き	▲64.9	▲67.9	▲53.6	▲54.8	▲45.2	▲51.9	▲58.6
社員前年	29.7	28.6	32.1	38.7	29.0	25.9	17.2
社員先行き	18.9	28.6	25.0	38.7	25.8	25.9	17.2
業況前年	▲10.8	▲7.1	▲7.1	0.0	▲3.2	▲7.4	▲3.4
業況先行き	2.7	0.0	0.0	3.2	6.5	▲7.4	▲6.9
資金前年	▲10.8	3.6	3.6	9.7	▲3.2	7.4	0.0
資金先行き	▲2.7	0.0	▲7.1	6.5	12.9	0.0	▲10.3
全体平均	▲7.9	▲2.4	▲4.2	2.2	▲2.4	▲4.0	▲5.7



※DI値(景況判断指数) = (増加・好転等の回答数 - 減少・悪化等の回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナス値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味するもの。